

縮まない高耐久ボックス型シーツ

ロールラインで大量生産可能な〈ハイブリッドシーツ〉

日中貿易ビジネスに関するコンサルティング、光学機器や映像機器の輸出、リネン製品の輸入などを手がける株式会社セス（東京都千代田区、大野芳一代表取締役社長）は、シーツの収縮率を大幅に抑えたボックス型「ハイブリッドシーツ」（特許申請中）を販売している。

高温洗濯でも収縮率は4%以下

昨今、利便性を追求したシーツが多く販売されており、ボックス型のシーツにニットを組み合わせて、作業性の向上を図る製品が好評だが、ボックス型であるがための欠点もある。元来、シーツは1枚の平生地できており、収縮率は10～15%。そのため、縮みを考慮して30～50cmも長くして製品化されている。しかし、ボックス型で長めに裁断してはシーツが踊って着用感を阻害するし、逆にジャストサイズでは縮んで入らなくなってしまふ。

そこでセスは、人手不足の病院・介護現場でニーズが高まるボックス型シーツにおいて、2年の歳月をかけて縮まないシーツを開発。速乾性と洗濯耐久性にすぐれ、リネンサプライ工場での洗濯を繰り返しても収縮せず、着用不能が生じない画期的なシーツだという。身生地は



◀投入機テストも良好。通常のロール仕上げが可能

ポリエステル30%・綿70%、ニット部はポリエステル100%。ウレタン繊維（弾性繊維）を全く使用せず、編み技術のみで形成されている。

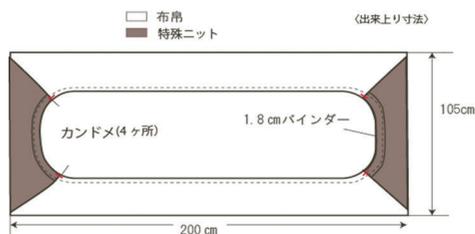
同社の収縮試験結果によると、商業洗濯の条件よりもアルカリ性の強い苛性ソーダで80℃・50回の洗濯及び乾燥を繰り返しても、収縮率は4%以下で推移。さらに、100回、150回の洗濯にも耐えられる性能を誇る。

通常のロール仕上げに対応

縮まない性能に加え、通常のロールラインでの処理が可能であることから、既に大手病院寝具工場でも採用が始まっている。とくに投入工程においても、クリップから外れたりせずに自然な投入ができ、完全自動たたみが可能。東都フォルダー工業(株)の投入機を使用した試験では、「SONIC-Eとの組み合わせによる投入で、良好な投入品質を得ている」としている。

マットレス85cm×200cm、90cm×200cmの両方に対応し、一般敷布団もOK。スタンダードタイプのほか、リバーシブル、角から水が抜ける穴あきタイプがある。

※製品の問い合わせは、TEL03・5296・2848まで。



縮まない

ハイブリッドシーツ

特許申請中



- 収縮率4%以下を実現したボックス型シーツ
- シーツ投入機～ロール仕上げで大量生産
- 高耐久性 100回～150回洗濯も可能

株式会社セス

東京都千代田区神田駿河台 4-2-3
TEL03-5296-2848 FAX03-5296-2849

http://www.ces-net.co.jp
E-mail: ces@ces-net.co.jp